

## 産科・周産母子センターに通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 我が国における前置癒着胎盤の周産期管理に関する調査

[研究機関] 北海道大学病院産科・周産母子センター

[研究責任者] 森川 守（産科・周産母子センター 講師・診療准教授）

### [研究の目的]

前置胎盤は分娩時に大量出血を生じる妊娠異常のひとつです。中でも、帝王切開術や子宮内容除去術などの既往子宮手術後における前置胎盤例では、胎盤が筋層に強固に付着する「癒着」の合併に注意する必要があります。この「前置癒着胎盤」の管理法は、胎盤と子宮を一緒に摘出する方法、もしくは癒着した胎盤を残した状態での子宮温存の2つに分類されます。次回妊娠の希望が強い場合には子宮温存が理想的です。胎盤を残した状態での子宮温存の場合、分娩後の感染や異常性器出血などの合併症も指摘されておりますが詳細は不明です。全国レベル調査を行い、多数例の検討により前置癒着胎盤における子宮温存の安全性を検討することが必要です。本研究の目的は、前置癒着胎盤症例のうち胎盤を残した状態での子宮温存を行った方の産後経過を明らかにすることです。

### [研究の方法]

#### ●対象となる患者さん

北海道大学病院産科・周産母子センターにおいて、2010年1月～2014年12月に妊娠転帰の判明した妊婦のうち、前置癒着胎盤と診断された妊婦

#### ●利用するカルテ情報

1. 分娩時年月、2.分娩時年齢、経妊、経産、3.既往歴：帝王切開（ ）回、筋腫核出の有無、流産手術回数、4.妊娠形式（自然、人工授精、体外受精）、5.前置胎盤の分類（全前置、部分前置、辺縁前置）、
- 6.部分・辺縁前置の場合（前壁優位、後壁優位）、7.分娩週数、8.肉眼的に明瞭な穿通の有無、9.子宮筋層切開部位（底部、体部、下部）、10.帝王切開時出血量、11.輸血（帝王切開入院中）、12.残置胎盤の有無（全部、一部：一部残置の場合は大きさ）13.子宮動脈塞栓術施行の有無、14.一時的動脈閉塞術（大動脈、総腸骨動脈、内腸骨動脈）の有無、15.子宮内バルーン留置の有無、16.術後収縮剤投与の有無、17.術後メソトレキ

セート投与の有無、18.内視鏡下胎盤摘出の有無、19.超音波ガイド下胎盤摘出の有無、20.分娩～産後退院までの日数、21.退院時胎盤消失（産後日目）または胎盤遺残あり、22.分娩後のhCG値評価の有無、23.分娩後～hCG陰性化までの日数、24.帝切後合併症（感染）の有無、25.帝切後合併症（異常出血）の有無、26.帝切後合併症（凝固異常）の有無、27.最終的に子宮を摘出または温存、28.治療後の月経再開の有無、29.治療後の妊娠成立の有無

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院 産科・周産母子センター

担当医師 森川 守

電話 011-706-5678(外来)/5789(病棟)/6932(医局) FAX 011-706-6932